



2019年3月期

業績のご報告

2019年5月10日

株式会社ディー・エヌ・エー

業績サマリー

単位：億円	2018年3月期				2019年3月期						前期	当期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前四半期比	前年同期比	実績	実績	前期比
売上収益 (IFRS)	365	369	328	333	339	343	264	295	12%	-11%	1,394	1,241	-11%
営業利益 (IFRS)	64	73	126	13	51	56	-21	49	-	288%	275	135	-51%
営業利益 (Non-GAAP)*	74	72	23	12	46	54	-15	0	-	-97%	181	86	-53%
税引前四半期(当期)利益	81	80	131	12	75	67	-25	65	-	436%	304	181	-41%
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益	53	50	124	2	52	44	-17	47	-	2189%	230	127	-45%
1株当たり四半期(当期) 利益 (EPS) (円)	36.67	34.61	85.64	1.41	36.03	30.51	-11.43	32.36	-	2192%	158.34	87.47	-45%
1株当たり配当金 (円)											32.00	40.00	25%
連結配当性向 (%)											20.2%	45.7%	-

(参考) 季節性の強いスポーツ事業を除いた四半期業績推移

売上収益	301	307	301	316	272	264	253	272	8%	-14%
Non-GAAP営業利益*	52	51	33	27	22	24	9	16	76%	-41%

*IFRSからNon-GAAPへの調整項目・算出過程及びNon-GAAP EBITDAは、本資料末尾の補足説明資料を参照

業績サマリー（旧セグメント区分による参考）

- ・ ゲーム事業は、固定費の継続的な筋肉質化に期を通じて努めるも前期比減収減益
- ・ スポーツ事業は、好調に推移
- ・ 新規事業における戦略的施策は、概ね期初計画に沿って進捗

単位：億円	2018年3月期				2019年3月期						前期	当期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前四半期比	前年同期比	通期	通期	前期比
売上収益	365	369	328	333	339	343	264	295	12%	-11%	1,394	1,241	-11%
ゲーム	243	244	242	251	215	212	198	211	7%	-16%	980	836	-15%
EC	40	40	38	43	34	27	29	33	16%	-23%	161	123	-24%
スポーツ*	63	62	27	17	68	79	12	23	96%	36%	169	181	7%
新規事業・その他	21	24	24	24	25	27	28	30	5%	24%	94	110	17%
調整額	-2	-2	-3	-2	-2	-2	-2	-2	-	-	-9	-8	-
営業利益	64	73	126	13	51	56	-21	49	-	288%	275	135	-51%
営業利益率	18%	20%	38%	4%	15%	16%	-	17%	-	-	20%	11%	-
セグメント利益	65	70	29	17	58	59	-13	6	-	-65%	181	110	-39%
ゲーム	73	61	57	60	53	47	31	51	62%	-15%	251	183	-27%
EC**	-5	4	2	4	2	4	3	3	4%	-18%	5	13	168%
スポーツ*	22	22	-10	-16	24	30	-24	-16	-	-	18	15	-20%
新規事業・その他	-14	-11	-12	-18	-17	-18	-19	-19	-	-	-55	-73	-
共通費・調整額	-12	-6	-8	-13	-4	-5	-5	-14	-	-	-39	-28	-
その他の収益***	3	4	108	10	5	1	1	56	4833%	469%	124	63	-49%
その他の費用***	4	1	10	14	12	4	9	13	33%	-9%	30	38	26%

* 野球のシーズンイン・オフ、試合日程等による四半期・半期単位での季節性に関する補正（各期に開催の主催試合数）：

2019年3月期（1Q 33、2Q 37、3Q 0、4Q 3）、2018年3月期（1Q 36、2Q 32、3Q 3、4Q 2）

**DeNAトラベルにおける2017年3月期以前のの一部取引に係る原価計上漏れ等の修正として、872百万円を2018年3月期第1四半期の売上原価に計上

***日本基準における、金融収益・費用を除く営業外損益や特別損益等が含まれる（例：有形・無形資産の売却・除却等）

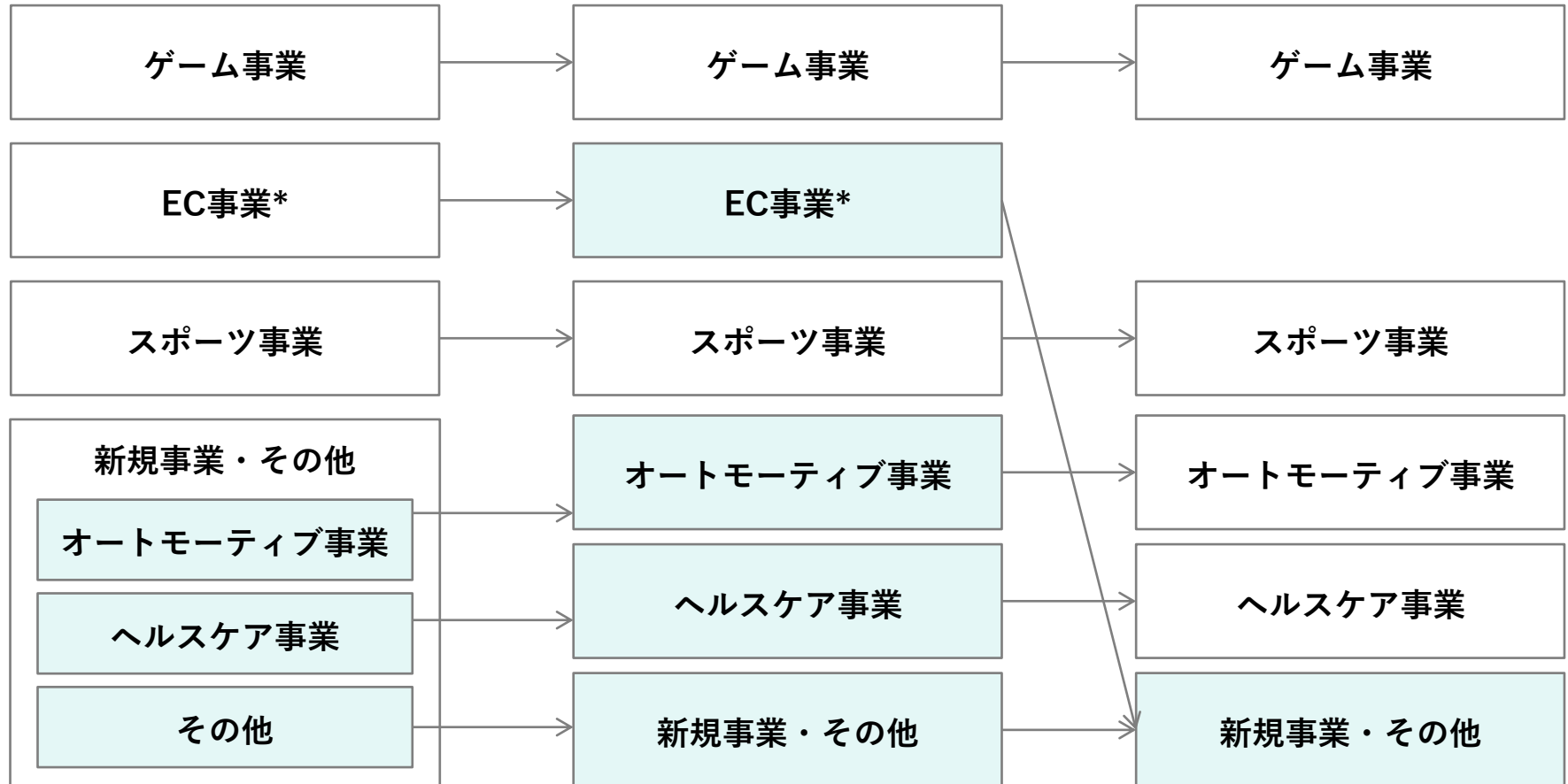
セグメント変更

- 現状の事業規模、経営戦略、また、会計基準に照らし、以下のとおり区分を変更

2019年3月期第3四半期まで

2019年3月期第4四半期・通期

2020年3月期以降



* 2018年5月31日付で株式会社DeNAトラベルの全株式を譲渡し、以降、連結対象外
 2019年3月29日付で株式会社ベイジェントの当社が保有する全株式を譲渡し、以降、連結対象外

セグメント別業績（IFRS）

単位：億円	2018年3月期				2019年3月期						前期	当期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前四半期比	前年同期比	通期	通期	前期比
売上収益	365	369	328	333	339	343	264	295	12%	-11%	1,394	1,241	-11%
ゲーム	243	244	242	251	215	212	198	211	7%	-16%	980	836	-15%
EC	40	40	38	43	34	27	29	33	16%	-23%	161	123	-24%
スポーツ*	63	62	27	17	68	79	12	23	96%	36%	169	181	7%
オートモーティブ	0	0	0	1	0	0	0	1	203%	52%	1	2	34%
ヘルスケア	5	5	6	5	5	5	5	7	27%	23%	21	22	5%
新規事業・その他	16	19	18	18	19	21	23	22	-2%	23%	71	86	20%
調整額	-2	-2	-3	-2	-2	-2	-2	-2	-	-	-9	-8	-
営業利益	64	73	126	13	51	56	-21	49	-	288%	275	135	-51%
営業利益率	18%	20%	38%	4%	15%	16%	-	17%	-	-	20%	11%	-
セグメント利益	65	70	29	17	58	59	-13	6	-	-65%	181	110	-39%
ゲーム	73	61	57	60	53	47	31	51	62%	-15%	251	183	-27%
EC**	-5	4	2	4	2	4	3	3	4%	-18%	5	13	168%
スポーツ*	22	22	-10	-16	24	30	-24	-16	-	-	18	15	-20%
オートモーティブ	-3	-2	-5	-9	-7	-7	-11	-11	-	-	-19	-36	-
ヘルスケア	-2	-3	-2	-2	-3	-3	-4	-2	-	-	-9	-12	-
新規事業・その他	-8	-6	-5	-7	-7	-8	-4	-5	-	-	-27	-24	-
共通費・調整額	-12	-6	-8	-13	-4	-5	-5	-14	-	-	-39	-28	-
その他の収益***	3	4	108	10	5	1	1	56	4833%	469%	124	63	-49%
その他の費用***	4	1	10	14	12	4	9	13	33%	-9%	30	38	26%

* 野球のシーズンイン・オフ、試合日程等による四半期・半期単位での季節性に関する補正（各期に開催の主催試合数）：

2019年3月期（1Q 33、2Q 37、3Q 0、4Q 3）、2018年3月期（1Q 36、2Q 32、3Q 3、4Q 2）

**DeNAトラベルにおける2017年3月期以前のの一部取引に係る原価計上漏れ等の修正として、872百万円を2018年3月期第1四半期の売上原価に計上

***日本基準における、金融収益・費用を除く営業外損益や特別損益等が含まれる（例：有形・無形資産の売却・除却等）

費用構成（IFRS）

- 新たな柱の構築に向けた成長投資を行いつつ、全体としては筋肉質なコスト構造の構築を推進

単位：億円	2018年3月期				2019年3月期						前期 通期	当期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前四半期比	前年同期比		通期	前期比
売上原価合計	150	142	142	143	139	147	136	140	3%	-2%	576	562	-2%
人件費	11	9	9	10	10	10	10	10	2%	6%	38	40	6%
減価償却費・償却費	21	22	25	26	24	25	25	24	-5%	-7%	95	99	4%
業務委託費	28	32	34	30	31	33	29	32	7%	4%	124	125	1%
支払手数料	58	59	56	55	52	55	55	54	-2%	-3%	228	216	-5%
その他	31	20	18	22	22	23	16	21	28%	-4%	91	82	-9%
販管費合計*	150	157	158	173	142	137	141	148	5%	-14%	637	569	-11%
人件費	41	35	35	37	36	34	35	38	9%	3%	147	143	-3%
販促費・広告費	26	33	35	36	26	24	26	22	-17%	-41%	130	97	-25%
業務委託費・支払手数料	63	67	65	66	60	57	60	60	0%	-9%	261	237	-9%
その他	20	22	24	33	22	22	20	29	46%	-13%	99	92	-6%
その他の収益**	3	4	108	10	5	1	1	56	4833%	469%	124	63	-49%
その他の費用**	4	1	10	14	12	4	9	13	33%	-14%	30	38	26%
連結従業員数(単位：名)	2,441	2,344	2,387	2,475	2,306	2,342	2,394	2,437	2%	-2%	2,475	2,437	-2%

*2019年3月期第2四半期より一部費用項目の集計区分を変更し、2018年3月期第1四半期までさかのぼって組み替えて表示

**日本基準における、金融収益・費用を除く営業外損益や特別損益等が含まれる（例：有形・無形資産の売却・除却等）

2020年3月期の方針

■ ゲーム事業における健全な収益性の確保

- ・ トップラインに応じた適切な費用のコントロールと筋肉質な事業運営を継続
- ・ 期待新規タイトルの立ち上げを含め、2020年3月期での再成長を目指す

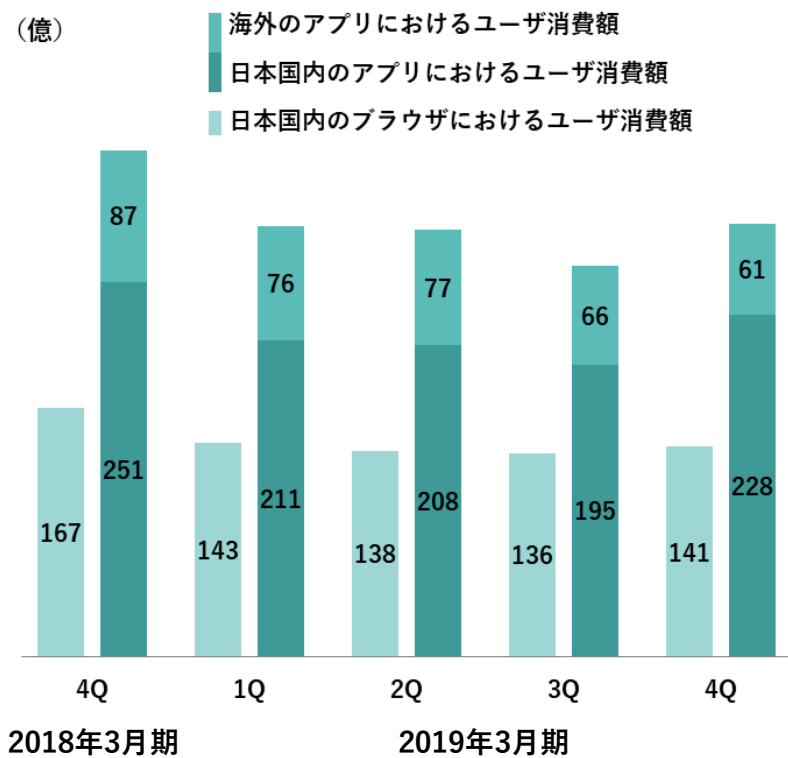
■ スポーツ事業は柱の事業のひとつとして更なる発展を図る

■ 新たな柱の構築に向けた積極的な成長投資

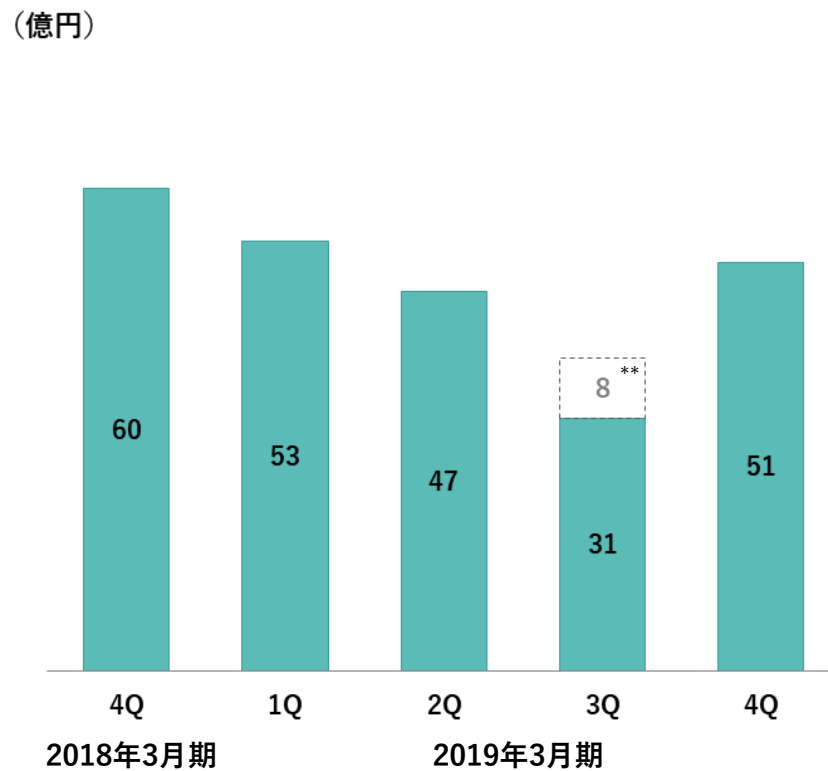
ゲーム事業：業績推移

- ・ 当第4四半期セグメント利益は想定通りの着地。年始の季節性や主要タイトルの周年イベント等が貢献
- ・ 2019年3月期は、既存タイトルの運営中心となり、ユーザ消費額は1,681億（前期比12%減）に留まり、マーケティング費用や業務委託費中心に継続して適正化・筋肉質化に努めるも同減収減益

ユーザの消費額*



ゲーム事業セグメント利益



*一部、無料付与分の消費額を含む

** 一時的な会計処理の影響

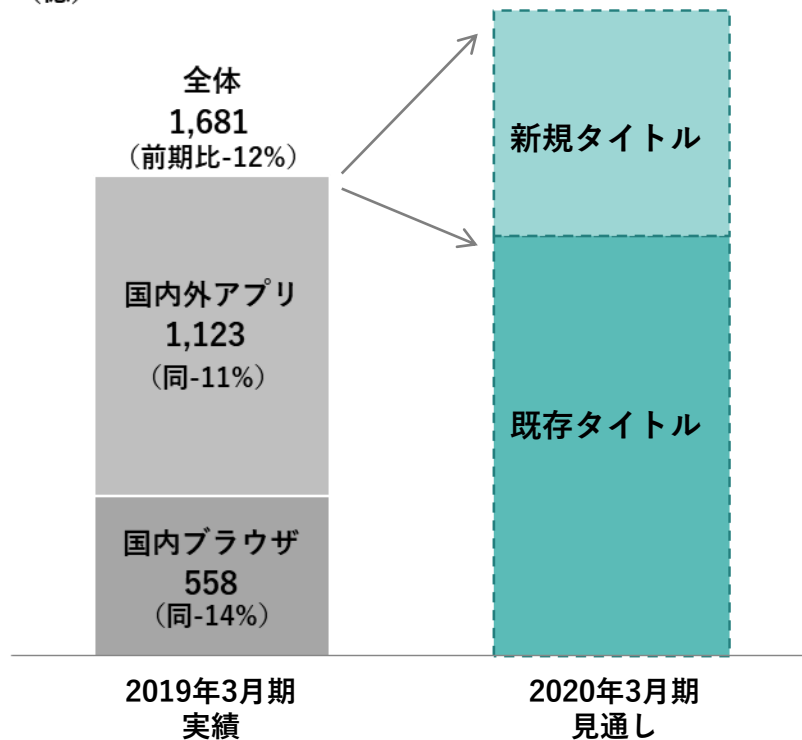
外部プラットフォームに対する債権額に関して、過去の支払手数料等の計上漏れが判明し、過去分も含め当第3四半期に修正を行ったもの

ゲーム事業：2020年3月期 見通し

- 2020年3月期は、期待新規タイトルの立ち上げ、成長フェーズのタイトルの最大化、継続的な固定費の筋肉質化に注力
- 期待新規タイトルの立ち上げも含め、再成長・アップサイドを狙う
- 既存タイトルの上に依存した場合、2020年3月期は、前期比で減収減益の見通し

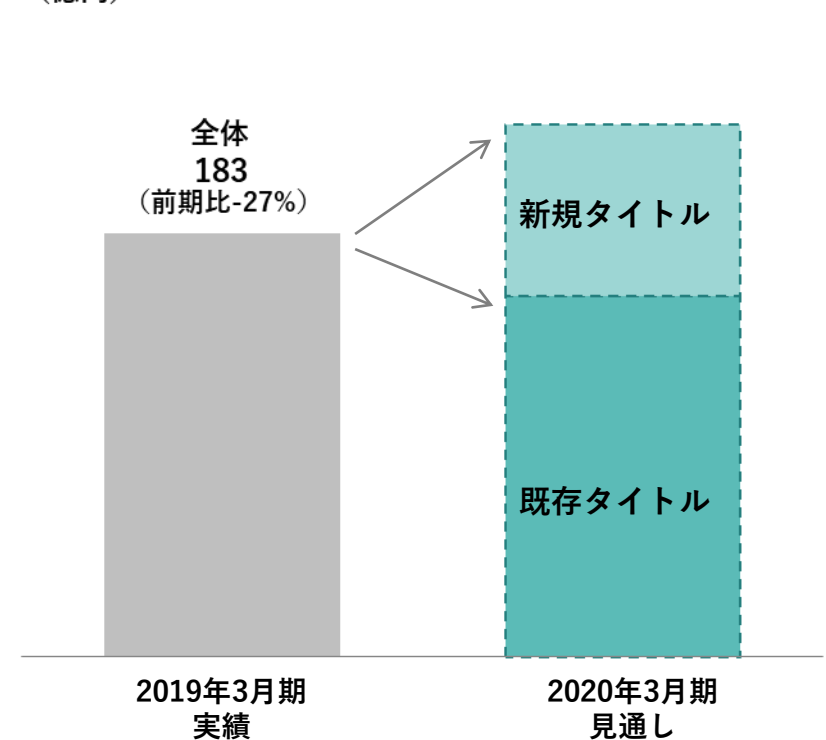
ユーザ消費額の考え方

(億)



ゲーム事業セグメント利益の考え方

(億円)



ゲーム事業：中期の成長戦略

- 中期的な収益の最大化に向け、強みに立脚し、大型IPを中心としたパイプライン戦略に転換
- 2020年3月期は、以下を一層強化し、戦略を推進
 - グローバルな配信・タイトル展開が可能な機能・体制の強化
 - 自社開発以外のリソースや手法の活用も含めた開発ラインの拡充

DeNAの強み

- ✓ IPホルダー等とのパートナーシップの確立・推進
- ✓ 現地化とIP活用戦略を核とした中国市場での日系企業としてユニークなポジション
- ✓ ゲームの運用力

中期的な パイプライン戦略

- ✓ 大型IP活用に重点を置いた新規タイトルラインナップを形成、また、グローバルでの配信も推進

ゲーム事業

- ・ 任天堂との協業における各タイトルは、イベントやアップデートを継続的に実施し、お客様にご満足いただくための工夫を重ねながら運営中
- ・ 2019年夏配信予定のマリオカート ツアーは、クローズドベータテストの参加者の募集を開始



© 2016 Nintendo



© 2017 Nintendo / INTELLIGENT SYSTEMS



© 2017 Nintendo

MARIOKART™ TOUR

マリオカート ツアー

クローズドβテスト

© 2019 Nintendo

ゲーム事業

- 株式会社ポケモンと協業し、グローバルで人気を博すポケモンを活用した期待スマートフォンアプリゲームの配信を今期予定
- タイトルの内容、リリース時期等の詳細については今後順次公表予定

The Pokémon Company

:DeNA

ゲーム事業

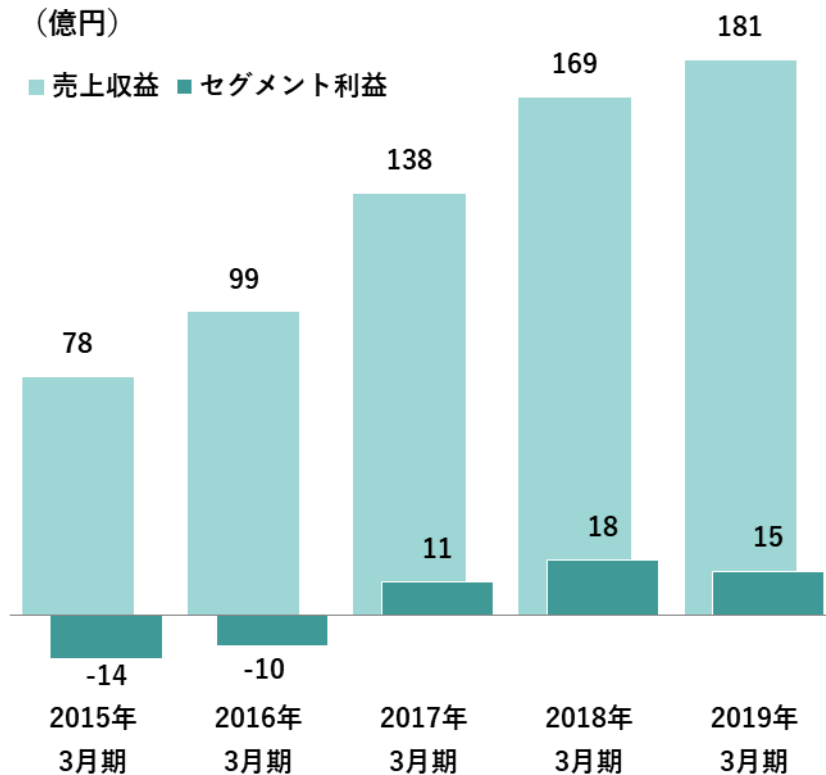
- 2020年3月期に入り、3タイトルをリリース



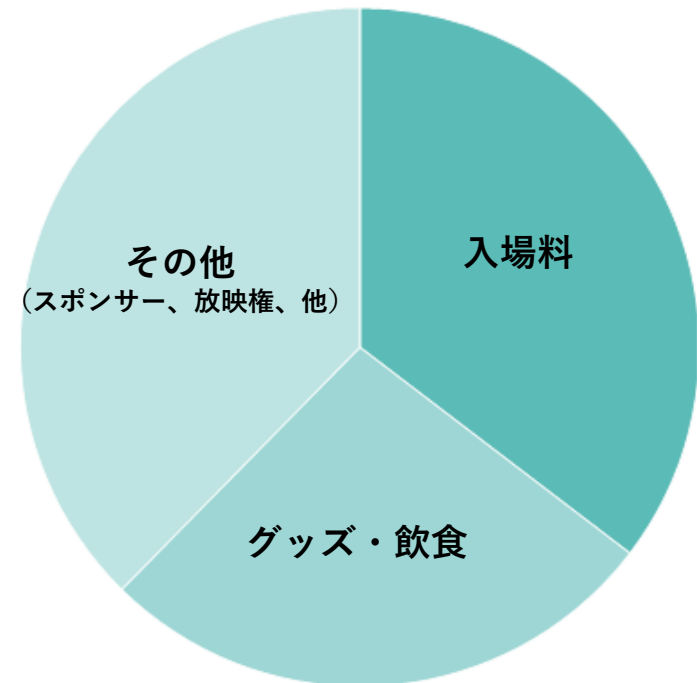
スポーツ事業

- ・ 2018年シーズンの観客動員数は、70年の球団史上最高の200万人超を記録
- ・ レギュラーシーズンの野球関連収入が球団入場料以外もバランスよく成長し、前期比で増収
- ・ Bリーグ「川崎ブレイブサンダース」の承継等により若干減益

スポーツ事業セグメント業績推移



野球関連収入*の構成比



スポーツ事業

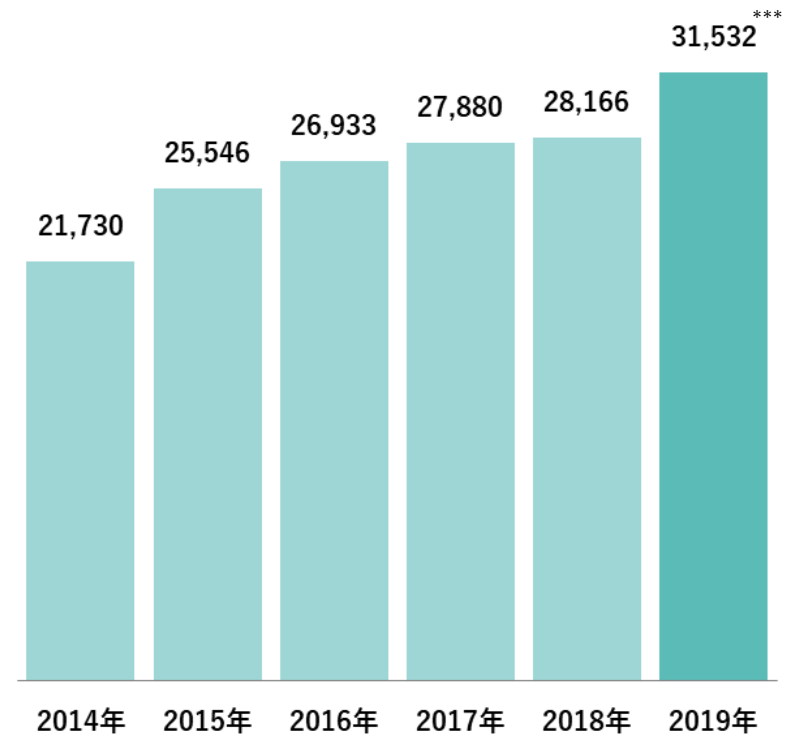
- 横浜スタジアムの増築・改修は順調に進捗し、2019年シーズンより一部稼働開始。昨シーズン同水準の稼働率を維持しながらのスタート
- 2020年3月期は、「川崎ブレイブサンダース」の収益改善も含め、事業全体での増収増益を目指す
- 中長期に向けては、スマートベニュー*構想の実現へ向けた足固めには継続して取り組む

横浜スタジアムは順次拡張中



©YDB

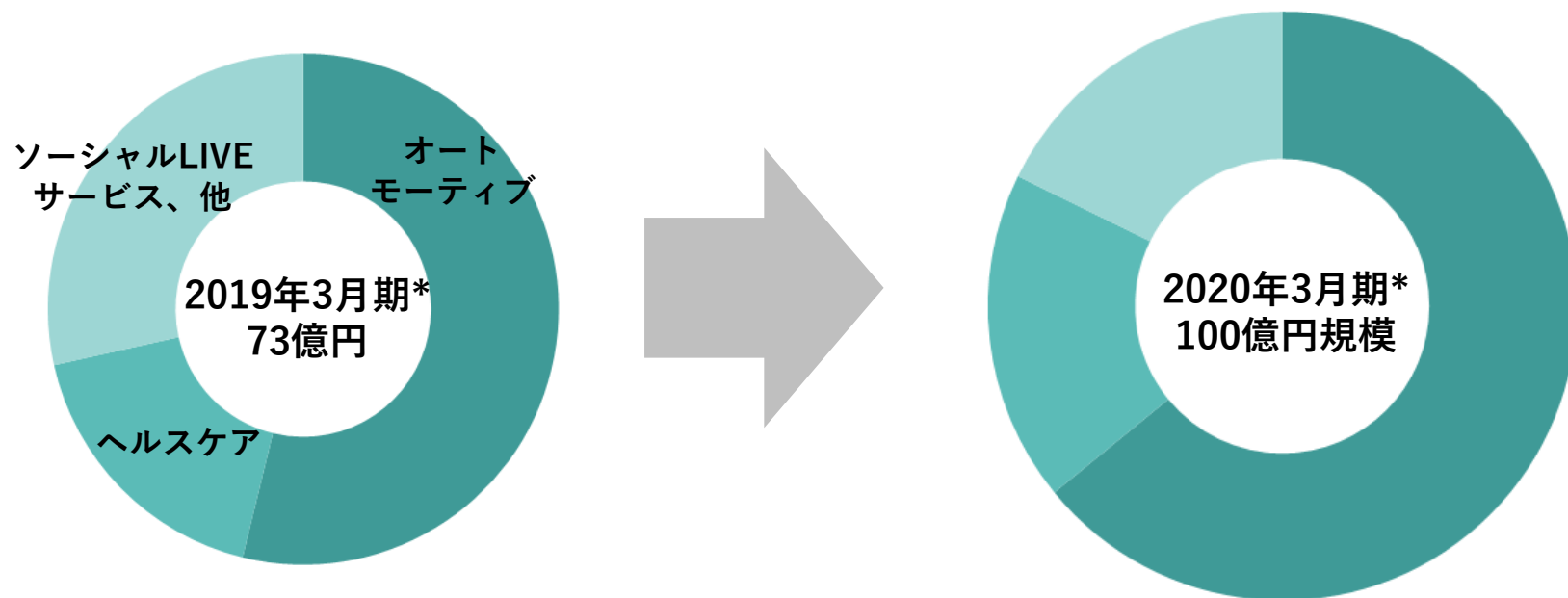
主催試合平均観客動員数**



新たな柱構築に向けた成長投資

- ・ オートモーティブ事業・ヘルスケア事業を中心に積極的な成長投資を継続
- ・ 戦略の進捗状況を確認しつつ、市場環境の動向等も踏まえ、適時適切に合理的な判断を行いながら投資を進める
- ・ 新規事業領域の資本政策は、外部資本の活用も含め、柔軟に検討

成長投資*の実績と見通し



* 旧「新規事業・その他」の区分における通期の損失額。2019年3月期は実績、2020年3月期は同様の定義による概算値

オートモーティブ事業

交通不全は日本経済の本質的課題

— 交通渋滞、高齢化、満員電車、急速に進行する都市化、都市空間の奪い合い・・・ —

Anything, Anywhere.

あらゆる人やモノが、安全・快適に移動できる世界を。

— インターネット×AIで交通の仕組みそのものからアップデートしていく —

一番身近なオンデマンド交通
を一層便利に

サービスや自動運転技術で
もっと自由な移動を*

だれもが数台のマイカーを
持つ未来へ



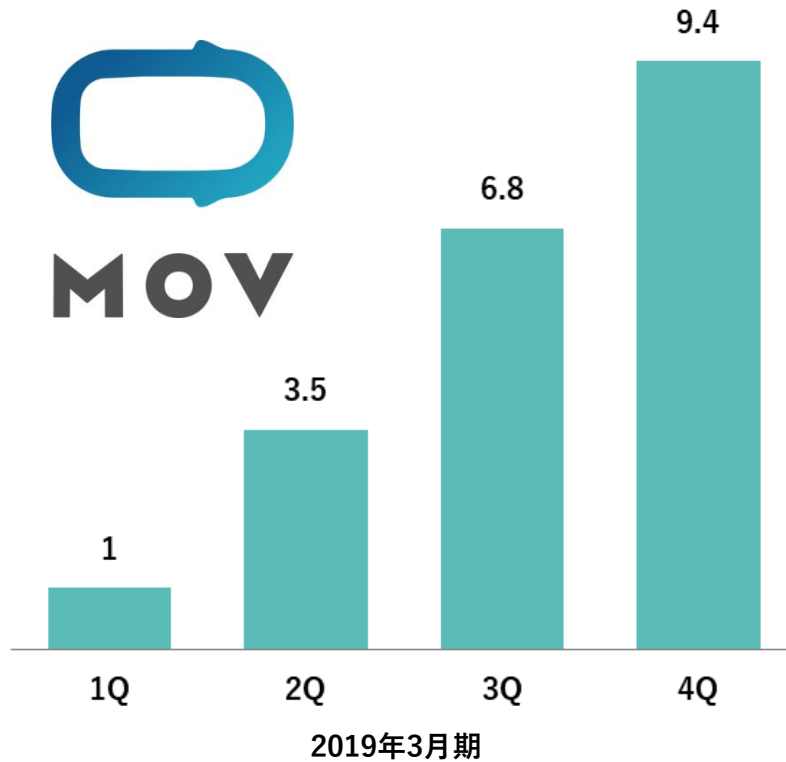
*日産自動車と共同開発中の無人運転車両を活用した新しい交通サービス「Easy Ride」

オートモーティブ事業

- ・ 次世代タクシー配車アプリMOVは、順調に立ち上がり
- ・ 2020年3月期には神奈川での事業確立、他エリアでの事業者導入を推進し、2021年3月期には全国実車回数ナンバーワン、翌期での本格的な収益貢献を目指す

1日あたり実車回数（四半期平均）

（2019年3月期1Q=1とした推移）



2020年3月期の注力ポイント

神奈川*

他地域に先駆け、事業確立に向けて注力

- ・ 参加事業者の総車両保有台数はエリア内ナンバーワン
- ・ ①配車手数料・②月額料（機器使用関連等）・③広告・④AIサポートといった事業モデルの検証・確立
- ・ 利用者獲得や利用拡大に関する施策や投資回収の最適化の検証

東京 首都圏 京阪神

事業者での導入を推進

- ・ 事業者での普及に向けた施策と投資に集中
- ・ 大阪・京都で協業事業者は既に決定、都市圏での事業基盤構築を図る

オートモーティブ事業

- 2019年4月に個人間カーシェアサービスAnycaを、「安心・安全」を届けるリアルな保険販売網と約1,300万件の自動車保険を通じた車とドライバーのデータを保有するSOMPOホールディングスとの合併会社であるDeNA SOMPO Mobilityに承継
- 座組みを新たに、カーリースを活用したサービス等Anycaとの相乗効果が期待される分野や、Anycaのノウハウの活用が可能な領域も含め、事業展開へ

DeNA

出資比率：51%*



SOMPO
ホールディングス

出資比率：49%*

DeNA SOMPO Mobility



個人間カーシェア事業

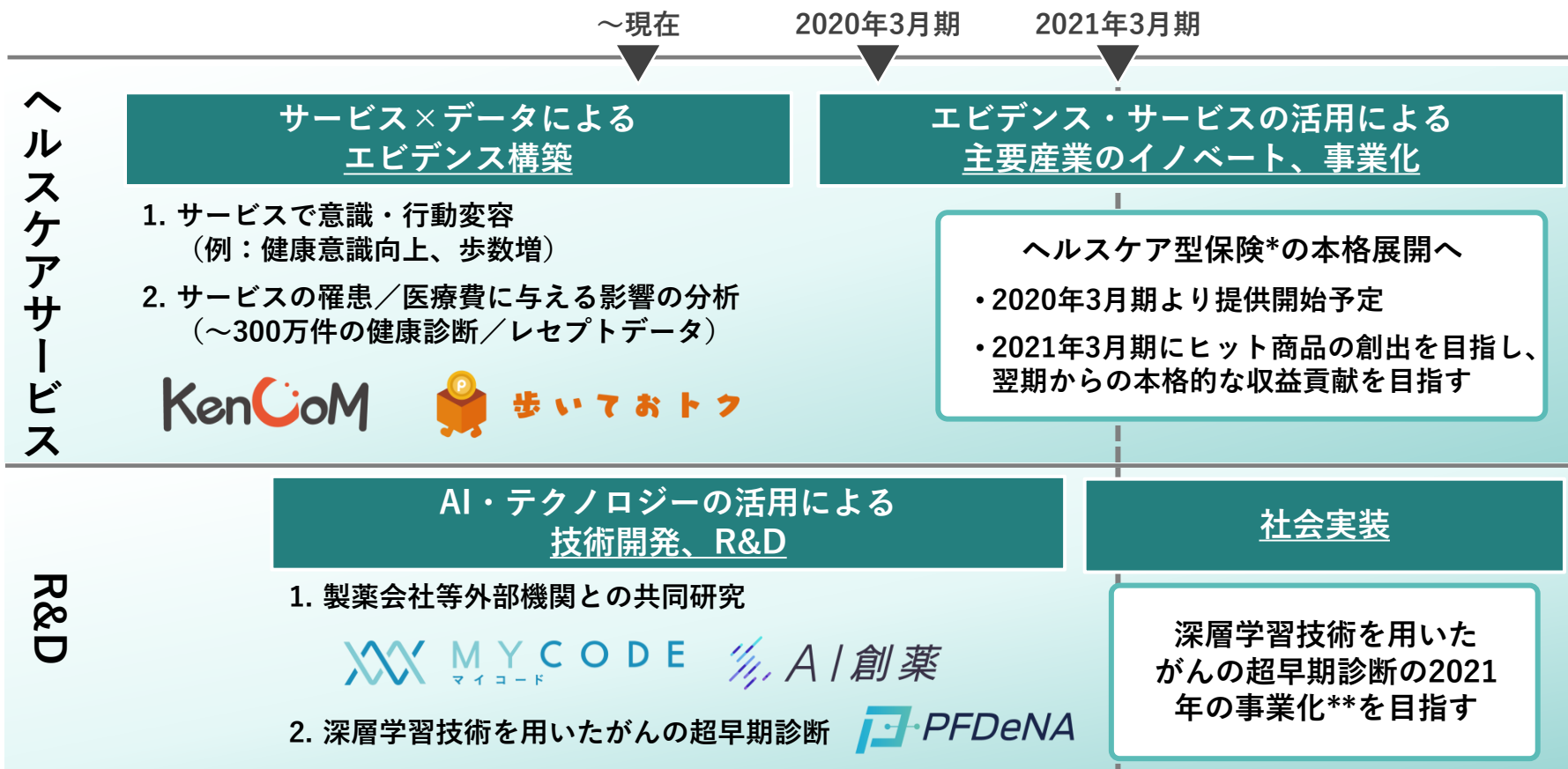
- 個人間カーシェアサービスAnycaの運営
- 個人間カーシェア専用保険の提供検討

マイカーリース事業（子会社のDeNA SOMPO Carlifeにおける事業）

- Anycaでの使用が公認された日本初のカーリース商品を2019年6月より首都圏・大阪・愛知で販売へ
- 空き時間にカーシェアすることでリース料を軽減し、シェアリング×サブスクリプションで誰もが憧れのマイカーを持てる社会を実現する

ヘルスケア事業

- 「SickケアからHealthケアへの転換を実現し、“健康寿命”を延伸」をミッションにかかげ、ヘルスケアサービス分野とR&D分野の2領域で事業を推進
- 2021年3月期において、ヘルスケア型保険の本格化、がんの超早期診断の事業化への見通しを立て、翌期での本格的な収益貢献を目指す

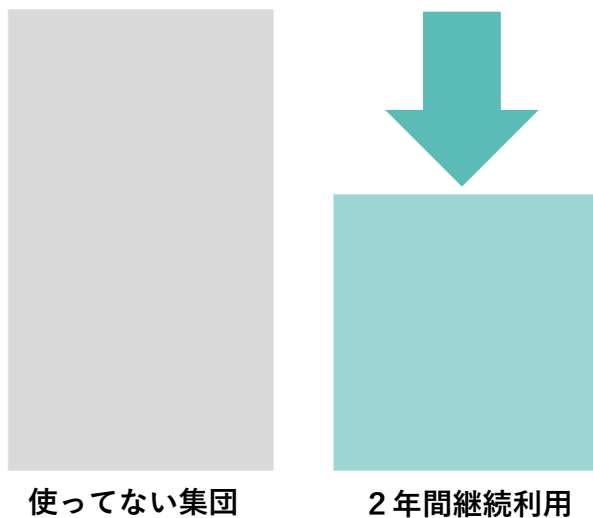


ヘルスケア事業：ヘルスケア型保険

- ・ サービス利用やライフログが罹患や医療費に与える影響に係るエビデンス構築が進展
- ・ 複数の生命保険会社との協業が進捗
- ・ 当社エビデンス・サービスを活用した商品の第一弾は、2019年に提供開始予定、2021年3月期にヒット商品の創出を目指す
- ・ 事業モデルは、共同開発する商品の売上やリスク改善の貢献度に応じた成果連動型のモデルを想定

エビデンス事例

KenCoM *利用による生活習慣病
の罹患リスク低減効果**



新たに朝日生命との協業に合意



朝日生命

お客様の健康増進、疾病罹患率改善の
実現に向け、以下の取り組みを予定

1. 朝日生命のお客様向けに「KenCoM」
を提供（2020年3月期下期予定）
2. ヘルスケア型保険商品の共同開発・
提供（2021年3月期以降予定）

ファンドの設立について*

- ・ 投資事業有限責任組合（名称は今後決定）の設立を決定
- ・ 以下1・2を軸とした取り組みを通じ、新たな事業の創出を促すとともに、人材の基盤の形成等を図る
- ・ スタートアップやイノベーションのエコシステムの活性化や起業文化の醸成への貢献も視野

本ファンドの概要（予定）

設立日	2019年 夏
出資の総額	約100億円* *キャピタルコール方式を採用予定。将来想定される額の記載。
有限責任組合員 (LP)	株式会社ディー・エヌ・エー
無限責任組合員 (GP)	当社子会社（代表：南場智子）*及び当社から独立した立場の個人複数名を組合員とする有限責任事業組合** * 新たに設立予定であり、当社が発行済株式の100%を保有する株式会社 ** 新たに組成予定の有限責任事業組合
投資対象	1. 当社社員をはじめとする社内外の独立起業支援 2. スタートアップ企業に対する投資 （プレシードからその後のフォローオンまで幅広く投資）

*本資料は、記載の当社の活動に関して公表するためのものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

2020年3月期の見通し

- ・ 連結業績予想については、合理的な数値の算出が困難であるため、開示を見合わせ

ゲーム事業

- ・ 任天堂との協業タイトル『Mario Kart Tour』（2019年夏配信予定）をはじめ、期待新規タイトルの仕込みが複数進捗中
- ・ これらが期中に有意な貢献を果たすに至った場合には、前期比での再成長が目指せるものとする一方、既存タイトルのみに依存する事業運営に留まった場合には、同減収減益となるものと考え、合理的・具体的見通しの算出は困難

スポーツ事業

- ・ 横浜スタジアムでは、順次拡張を行っており、2019年シーズンに一部の稼働を開始。「川崎ブレイブサンダース」の収益改善も含め、事業全体での増収増益を目指す
- ・ 2020年3月期の主催試合予定：1Q 35試合、2Q 34試合（以降の日程については未判明）

新規事業領域

- ・ 15ページに記載のとおり、オートモティブ事業やヘルスケア事業を中心に、100億円規模（※）の成長投資を想定
※ 旧「新規事業・その他」区分のセグメント損失額
- ・ 投資は、戦略の進捗状況を確認しつつ、市場環境の動向等も踏まえ、適時適切な判断を行いながら進める

その他の要素 及び 留意点

- ・ 前期は、DeNAトラベルやペイジェントの譲渡*等を行っており、子会社株式売却益等がその他の収益を押し上げ
- ・ 現時点において、こうした一時的な要因に繋がり得る公表すべき事項は無し

自己株式取得について

- 資本効率の向上と経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行とともに、株主還元策として1株当たりの価値向上のため、以下のとおり自己株式取得を実施

自己株式取得の概要

取得対象株式の種類	当社普通株式
取得し得る株式の総数	38,000,000株（上限） （発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合26.14%）
株式の取得価額の総額	500億円（上限）
取得期間	2019年5月13日 ～2020年4月30日
取得方法	東京証券取引所における市場買付

（参考）2019年3月31日時点の自己株式の保有状況

発行済株式総数（自己株式を除く）：145,349,764株

自己株式数：5,460,269株*

*当社は従業員インセンティブ・プラン「株式付与ESOP信託」を導入しており、上記の自己株式には当該信託に係る株式付与 ESOP信託口が所有する当社株式274,984株を含めております。

ミッション（普遍的に目指す姿）
Delight and Impact the World
～ 世界に喜びと驚きを～

ビジョン（長期の経営指針）
**インターネットやAIを活用し、
永久ベンチャーとして世の中にデライトを届ける**

DeNAが考える永久ベンチャー：

当社グループが社会に貢献し、歓迎されることを大前提として、常に新しい価値提供に挑戦し続けること

補足説明資料

- IFRSベースからNon-GAAPへの調整表
- キャッシュ・フロー
- バランスシート
- 事業ポートフォリオの強化と中長期の成長イメージ
- セグメント区分

IFRSベースからNon-GAAPへの調整表

単位：億円	2018年3月期				2019年3月期				2018年3月期	2019年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	通期
IFRS営業利益からNon-GAAP営業利益への調整										
IFRS営業利益	64	73	126	13	51	56	-21	49	275	135
会計上の計上時期の補正等（純額）	+1	-1	-2	+5	-2	-1	+6	+6	+3	+9
買収、事業・組織変更等に係る一時費用	+9	+3	+5	+3	+0	+0	+0	+0	+20	+1
買収、事業・組織変更等に係る一時利益	-	-1	-107	-9	-4	-	-	-55	-117	-59
Non-GAAP営業利益	74	72	23	12	46	54	-15	0	181	86
スポーツ事業損益	-22	-22	+10	+16	-24	-30	+24	+16	-18	-14
スポーツ事業を除くNon-GAAP営業利益	52	51	33	27	22	24	9	16	163	71

単位：億円	2018年3月期				2019年3月期				2018年3月期	2019年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	通期
IFRS営業利益からNon-GAAP EBITDAへの調整										
IFRS営業利益	64	73	126	13	51	56	-21	49	275	135
会計上の計上時期の補正等（純額）	+1	-1	-2	+5	-2	-1	+6	+6	+3	+9
買収、事業・組織変更等に係る一時費用	+9	+3	+5	+3	+0	+0	+0	+0	+20	+1
買収、事業・組織変更等に係る一時利益	-	-1	-107	-9	-4	-	-	-55	-117	-59
減価償却費・償却費	+26	+27	+30	+31	+28	+27	+28	+26	+114	+109
固定資産の除却（一時要因除く）	+3	+0	+5	+3	+12	+2	+1	+11	+12	+25
Non-GAAP EBITDA	104	100	58	45	85	84	14	37	306	219

キャッシュ・フロー

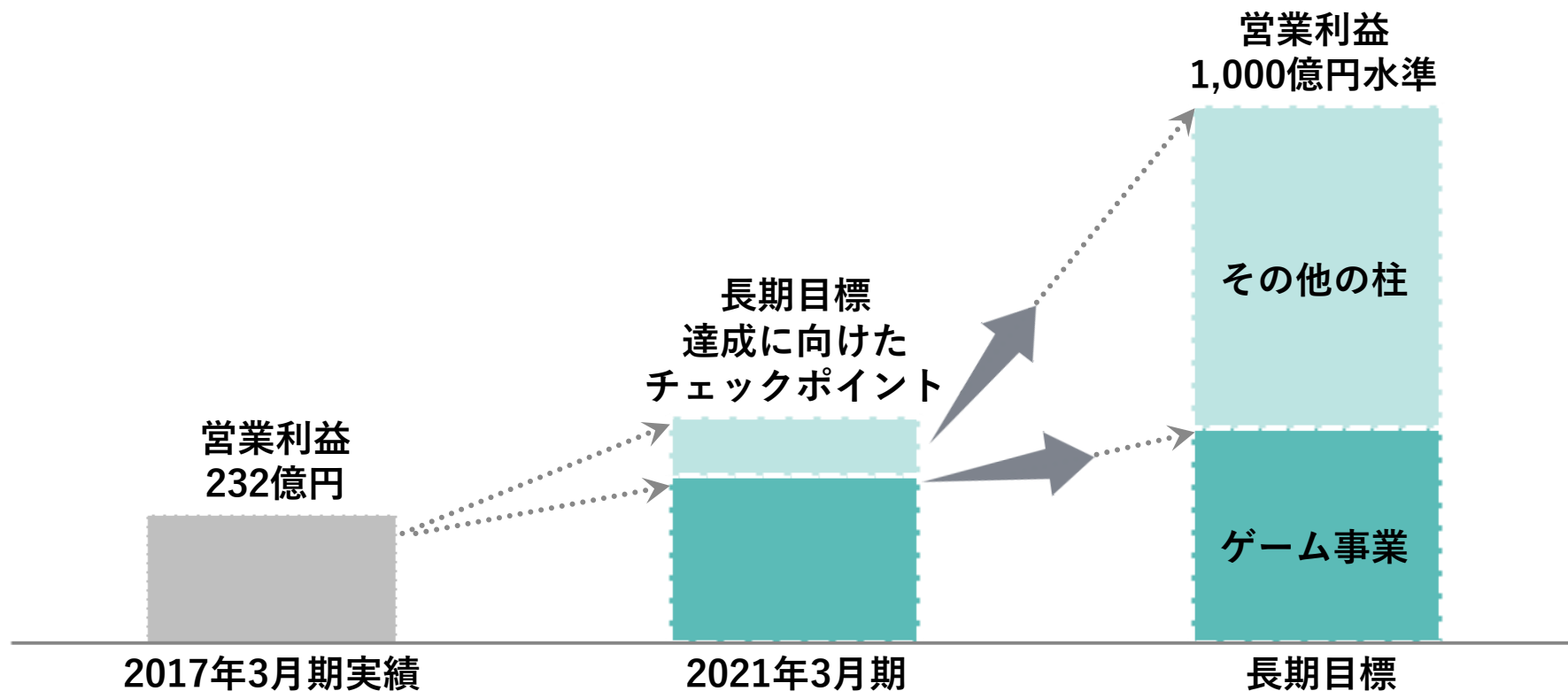
単位：億円	2018年3月期 通期	2019年3月期 通期
営業活動によるキャッシュ・フロー(A)	377	230
税引前当期利益	304	181
減価償却費及び償却費	114	109
法人所得税支払額	-36	-23
その他（差引）	-5	-37
投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	-165	-210
財務活動によるキャッシュ・フロー	-54	-47
配当金支払額	-46	-46
非支配株主への配当金支払額	-12	-7
その他（差引）	4	6
フリー・キャッシュ・フロー ((A)+(B))	212	20
連結 現金及び現金同等物	1,037	1,014
（うち、DeNA単体）	766	850

バランスシート

単位：億円	2018年3月期末	2019年3月期末
流動資産	1,571	1,337
うち、現金及び現金同等物	1,037	1,014
非流動資産	1,875	1,627
うち、のれん	463	460
うち、無形資産	188	154
うち、持分法で会計処理している投資	165	187
うち、その他の長期金融資産	996	706
資産合計	3,446	2,965
流動負債	594	319
非流動負債	141	77
資本合計	2,711	2,569
うち、親会社の所有者に帰属する資本合計	2,633	2,517
負債及び資本合計	3,446	2,965

事業ポートフォリオの強化と中長期の成長イメージ

- 全社収益を支えるゲーム事業は、大黒柱として継続して強化を図る
- 長期的には、複数事業をゲーム事業に匹敵する収益の柱に育てあげる
- 2021年3月期までには、長期ビジョンの成功の蓋然性が格段に高まっている状態を築く
- ポートフォリオの強化にあたっては、M&Aも積極活用



セグメント区分

セグメント区分	内容
ゲーム事業	国内外ゲーム
EC事業*	オークション（モバオク）
スポーツ事業	野球、バスケットボール、ランニングクラブ等
オートモーティブ事業	MOV、Anyca等
ヘルスケア事業	MYCODE、KenCoM、歩いておトク等
新規事業・その他	サブセグメント名（カッコ内は主なサービス名） • IP創出プラットフォーム（マンガボックス、エブリスタ） • その他ネットサービス（SHOWROOM、Pococha）

本説明会及び説明資料の内容は、発表日時点で入手可能な情報や判断に基づくものです。将来発生する事象等により内容に変更が生じた場合も、当社が更新や変更の義務を負うものではありません。

また、本説明会及び説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、多分に不確定な要素を含んでいるため、実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なる場合がありますことをご了承ください。



株式会社ディー・エヌ・エー